

令和7年度第二回

資料4

2025年8月6日
浦松晶

子ども支援の現場と 若者当事者の視点から考える

...

川越市こども計画

テーマについて

川越市こども計画の感想

子ども支援の場づくりの経験や、私自身が若者当事者であるという視点で川越市こども計画を読みました。



はじめに

「子どもまんなか社会」の実現に向けて

基本方針(こども大綱より)

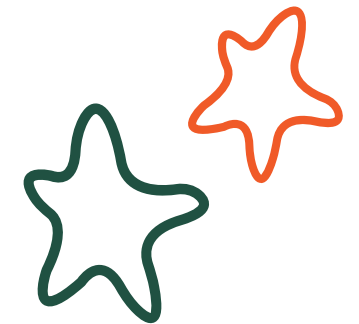
1. こども・若者を**権利の主体**として認識し、その多様な人格・個性を尊重し、権利を保障し、こども・若者の今とこれからの最善の利益を図る。
2. こどもや若者、子育て**当事者の視点を尊重**し、その意見を聴き、**対話**しながら、ともに進めていく。
3. こどもや若者、子育て当事者のライフステージに応じて**切れ目なく対応**し、十分に支援する。
4. 良好な成育環境を確保し、**貧困と格差の解消**を図り、**すべてのこども・若者**が幸せな状態で成長できるようにする。
5. 若い世代の生活の基盤の安定を図るとともに、**多様な価値観・考え方**を大前提として、若い世代の視点に立って、結婚、子育てに関する希望の形成と実現を阻む隘路（あいろ）の打破に取り組む。
6. 施策の総合性を確保するとともに、関係省庁、地方公共団体、民間団体等との**連携を重視**する。

実行上の課題

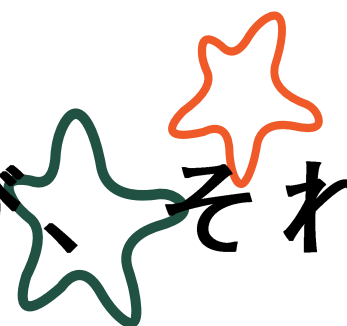
どのように実現？

- 権利の主体
- 対話
- 切れ目ない対応
- すべての子ども・若者の幸せ
- 多様な価値観・考え方の尊重
- 多機関連携

→実行段階では様々な配慮やスキルが必要になるのではないか



川越市こども計画

- ・まとめられたデータにより川越市の現状を把握でき大変勉強になった。
。
- ・たくさんの数字が並び、事業ごとに事業実績が可視化されていた。質的データに比べ量的なデータが多い印象。
- ・子ども若者からの意見聴取のページには質的データが並び、それによって他のページとバランスが取れているように感じた。

川越市子ども計画

01

若者政策

年齢が上がるほど支援が薄くなっているという印象を持った。また計画名からも若者が対象であることがわかりにくく、支援を必要とする人が手に取りやすい工夫の余地があるのでは。

02

「声なき声」
に対して

意見を表明することが簡単ではない人へどのような意見聴取の手法があるのか検討することはすべての若者の幸せを実現するために、中心的な取り組みの内容になるはず。

03

難しい要望
に対して

もしも子ども若者から必要と思われるが簡単に実現できない要望が上がってきた場合、どのようにその要望に対応するべきか。

N P O の機能 子ども支援の現場から

教育格差是正をミッションに、簡単には解決しない課題に対して様々な工夫を凝らすことによりイノベーションが起きる。

イノベーション

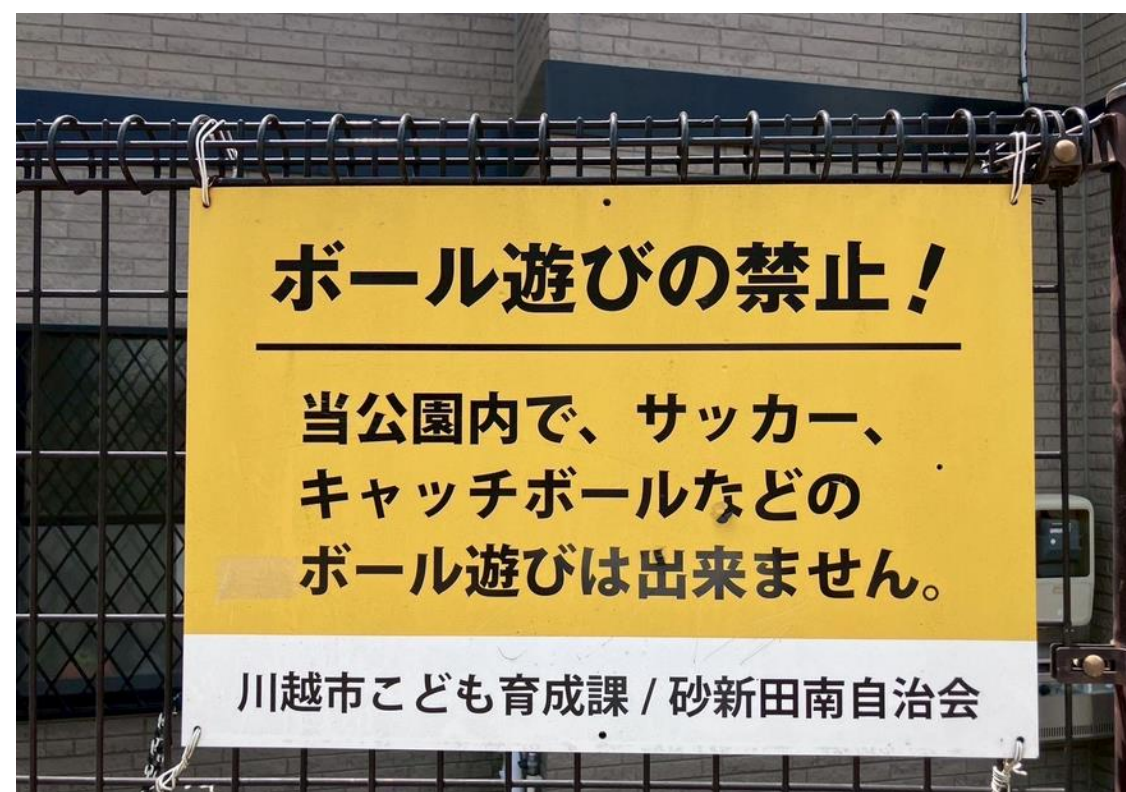
アドボカシー

コミュニティを形成しエンパワメントをすることにより、声なき声は聴くことができる状態になる

若者政策

声なき声に対して

難しい課題に対して



こどもの声



放課後の学校や大きい公園などボール遊びができる場所があった。



放課後は公園のベンチか友達の家でゲームをして過ごしていた。



公園ではブランコをして遊んだ。ボール遊びには興味がなかった。



住宅街の中に住んでいる人など近くにボール遊びできる場がない子もいるかも

結論

何を意見すべきか本当にはわからなかったのかもしれない

なぜ、ボール遊びに関して各小学校から意見が上がったのか、この対話においてはこどもたちは共感できなかった様子だった。一方で、市役所の方に何を意見したいか聞いても、限られた時間の中ではだれからも意見が挙がってこなかった。こどもからの本当に有効な意見を聞くためには、更なる対話の工夫など、かなりの配慮や工夫が必要なのかもしれない。

メッセージ

メッセージ

当事者による参加・対話の促進を

新たに見えてきた課題があれば、
地域社会全体で解決に向き合い
「こどもまんなか社会」を実現したい。



ご清聴ありがとうございました